

# ボトムアップ研修

特定非営利活動法人 サポートセンターとまり木  
〒390-0303 長野県松本市浅間温泉 1-21-9

## 助成事業の概要

事業の目的は、スタッフへの研修を強化し様々な分野に短期間で対応できるようにすることです。生活困窮者支援に関心があるボランティアから出発した人もいれば、社会福祉士の資格があっても生活困窮者支援には距離のあった人もいて、スタッフの育成には難航してきました。また、予算や活動時間外に研修にあてられる時間の捻出、講師手配などすべてに限界があり、このたび助成を受けて事業を開催することができました。

時期は2021年度6月より本格実施、3月に終了したものの、2022年に入って新型コロナウイルス感染症の感染拡大期にあたってしまい、地域住民なども交えての講演型研修が1件できませんでした。もう1件はズームを用いたスタッフ限定の研修に急遽切り替えて実施することができました。

## 事業の成果

### ■社会福祉の基本研修について

社会福祉士であれば基本とされる支援技法や前提を共有せずに「想い」や人生経験で相談員になってきたスタッフもいるため、得意分野と苦手分野がありました。また、支援の目的やゴール設定などを意識できずに部分的な関与となってしまうという課題もあったため、基本的な相談支援技法の共有と他機関へのつなぎまでの研修を行いました。このことによって、定型を知り支援を進めていくことが可能になり、社会福祉士であっても生

活困窮者支援において苦手とする部分を把握することができるようになるなどの効果がありました。

### ■金銭管理支援の基礎研修について

住まいを失うほどの困窮に至るには、金銭管理の行き詰まりがあります。ひとたび相談につながって住まいを得ても相談者のお金の使い方が変わらなければ再び困窮してしまうため、①相談に至るまでの過去の金銭トラブルを適切に解決の方向へつなぐこと、②現在からみらいへ向けてお金の使い方について相談者の思考や行動パターンなど自己理解を促す働きかけや専門機関(日常生活自立支援事業等)へのつなぎのための研修を行いました。金銭トラブルは多岐にわたるため連携先ごとの基礎をおさえ、相談者へのアプローチについてもフォーマット開発等全スタッフが対応可能な状態を作ることができました。

### ■医療面からの基礎研修について

当法人の運営するシェアハウスを利用する人の中には、心身の状態が悪い人もおりこれまで対応に苦慮してきたため、ホームレス状態にある人と精神疾患について医師から実際の接し方に重点を置いた研修を実施しました。講師は住居喪失者支援に理解と実践のある医師にお願いしました。これまでも精神疾患について学ぶ機会は他所の研修などでもあったのですが一通りの理解にとどまり、住居喪失やそれに伴う社会的排除や孤立などとの関連がなかったため、この研修で何でも聞けてすぐに使える役立つ結果となりました。

## ■ 成果の広報・公表

当法人広報「とまり木通信」(発行時期7月初旬予定)にて事業報告を行うほか、団体ホームページへも同様に事業報告を掲載します(5月予定)。

成果物である支援フォーマットは、団体内での利用以外に、主に個別ケースでの連携を通じて外部へ無償提供していきます(2022年度活用中)。独自の事業報告書を作成し配布予定です(発行時期6月末までに 連携機関等含め)。

開催方法(集合/オンライン)未定ですが、法人全体の事業報告会の開催も同時期に検討しています。

## ■ 今後の展開

今回の研修は、今後も繰り返し利用可能なのでスタッフ研修(新人向け、継続者への定期的な研修内容更新)に用いる予定で、2022年度の研修スケジュールを組んでいます。企画途中で断念した研修についても内容としては大切なものなので再企画を考えています。今後については、法人の全活動へのデジタル化とデータの活用推進を予定しています。このことによって、相談者の相談時点での状況数値化、相談者へのアプローチによってどのような変化をもたらせるか等、様々な分析も可能になっていきます。デジタル化の推進では外部発信を強化し、関心層へのアプローチならびに困難を抱えた人が相談しやすくする等環境整備に努めたいと考えています。